

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	上下水道の啓発事業	会計	水道事業	事業No.	283	施策順No.	45-002
		事業種別	政策・その他	予算科目	2-1-4--		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	水道業務課		
施策	45 居住基盤の向上			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	小・中学生 一般市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	小・中学生	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	上下水道に対する理解を深める 上下水道の事業運営や、健全な発展に役立たせる							
	対象をどう変えるか	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
		飯田市の人口(人) (H21年度住民人口)	107259	105691	105036				B
		上下水道週間等作品の応募数	56	81	44	40	43	60	
		上下水道関連行事への参加数、上下水道施設見学数	49	18	15	20	15	30	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		・作品の応募数は限られている。表彰が国単位しか行われないため、応募意欲に欠ける側面がある。 ・上下水道施設参加者は低水準である。内容の検討が必要でPR方法も課題である。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	毎年、全国規模で開催される「水道週間」「下水道の日」を中心に、市民へ上下水道の理解を深めてもらう。また、年間を通じホームページによる情報の発信を行ない、今後の上下水道事業の発展に資する。(18年度水道週間作文の部にて中学生1点と、小学生1点が全国入賞)		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	水道週間・下水道の日・生活と環境まつりを中心とし、市民への水資源啓発事業の展開及び社会の動向を踏まえ、日常的業務においても啓発活動を展開する。水道週間の作品募集及び施設見学、下水道の日の作品募集、施設見学者を通年で受入れる。	施設見学者数、出品作品数、イベント参加者等の数	出品作品数 施設見学者数
23年度実施計画	水道週間・下水道の日・生活と環境まつりを中心とし、市民への水資源啓発事業の展開及び社会の動向を踏まえ、日常的業務においても啓発活動を展開する。水道週間の作品募集及び施設見学、下水道の日の作品募集、施設見学者を通年で受入れる。	施設見学者数、出品作品数、イベント参加者等の数	出品作品数 施設見学者数

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	市単独事業 特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		21	21	51		
計(A)		21	21	51		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)				0		
トータルコスト A+B				21		

4 事業に対する市民や議会の意見

見学会への参加者からは、ライブラインがいかに大切であるかとの痛感の声、汚泥処理の大変さを見学してみて実感した等の声がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞業者、事業者の生活・事業に必要な基盤が整う。	施策の成果指標又はムトス指標	水道の普及率(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	広く環境や水について関心が持てる機会を設けることで、市民が水道や下水道に対して好意的に接してくれる契機となっている。		下水道の普及率(%)
	後期に向けた課題	震災後、市民の水の安全に対する関心が急速に高まっている。施設見学の内容を吟味し、市民ニーズを的確に捉えた事業となるように努める。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	小中学生を中心に応募の促進を図ってきた。 上下水道や環境に係る施設を見学する。		
	後期に向けた課題	震災後、市民の水の安全に対する関心が急速に高まっている。施設見学の内容を吟味し、市民ニーズを的確に捉えた事業となるように努める。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市民の応募や市民参加の事業であり、適切に実施されている。		
	後期に向けた課題	今後も適切に事業が実施されるように努める。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけを してきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	参加者数に現れているように計画内容の見直しが求められる。		
	後期に向けた課題	市民が広く水や環境に対して親しみを持てる機会となるように努める。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------